

平成28年 7 月 8 日

手術室内での筋弛緩薬（エスラックス）の紛失について

独立行政法人国立病院機構
岡山医療センター 院長

平成28年6月30日(木)最終手術終了後の20時30分頃、当院手術室廊下に設置している薬品用保冷庫にて保管している「非脱分極性麻酔用筋弛緩剤ロクロニウム臭化物注射液（商品名：エスラックス®静注50mg/5.0mL）」の本数を確認したところ、1本不足していることが判明しました。

直ちに院内調査を開始し、翌7月1日（金）にかけて当該薬の使用量・在庫量の照合、帳簿類の確認、関係職員への聴取、手術室内全エリアの確認、医療廃棄物・一般ゴミ・洗濯物等の確認を実施しました。調査結果から、6月30日（木）8時00分頃から20時30分頃の間不明となっていたことが分かりましたが、現在のところ発見には至っておりません。

7月1日（金）には臨時医療安全管理委員会を開催し、調査状況の確認を行いました。当院としては部外者により外部へ持ち出された可能性は低く、誤って廃棄した可能性若しくは使用数量の記載誤りの可能性が高いと考えておりますが、当該薬剤は毒薬であり誤廃棄・誤記載以外の可能性も否定できないことから、7月1日（金）13時00分頃に岡山市保健所へ連絡し、同日夕方同所による現場調査を受けました。

また、7月4日（月）に開催した幹部会議にて所轄警察署へ届出することを決定し、翌5日（火）8時35分頃に岡山西警察署へ連絡を行い、同日午前中から引き続き現在も警察による現場確認・聞き取り等の確認を受けております。

今回の事案は毒薬の紛失という重大な事案であるということから、関係機関の指導の下、引き続き原因究明に努めると共に、今後の再発防止に向けた次の対策を講じることと致しました。

- ① 筋弛緩薬の薬品保冷庫は、日中の職員在室時は施錠していなかったが、昼夜を問わず常に施錠する。
- ② 薬品保冷庫から筋弛緩薬を取り出し又は返納した場合は、時間と残数をチェック表に記載する。
- ③ 手術毎に使用した筋弛緩薬の空バイアルを複数者により確認する。

地域並びに関係機関の皆様にご多大なご心配をお掛けし、お詫び申し上げます。

引き続き、院内に於いて捜索すると共に、今まで以上に厳格な薬剤管理に取り組み、再発防止に努めて参ります。

【本件にかかる問い合わせ先】

独立行政法人国立病院機構岡山医療センター
事務部 管理課長 山根 知己
電 話：086-294-9911（内線：4410）
F A X：086-294-9255